

令和7年度 たつの市立半田小学校 学校経営方針

Ⅰ 学校教育目標

「^{ふるさと}郷土半田に誇りをもち、夢に向かって挑戦する児童の育成」

～ 自分らしく、たくましく、なりたい自分に一歩近づく半田っ子 ～

2 経営方針

- (1) 全教職員の英知によって、「すべての子どもが安心して笑顔で学べる学校」づくりを推進する。
- (2) 地域や児童の実態を踏まえ、教科横断的な視点でカリキュラムをマネジメントし、自ら課題を見つけ、自ら学ぶ意欲や思考力・判断力・表現力を育成する学習活動を充実させる。
- (3) 基礎・基本の着実な定着と個性伸長を図るため、兵庫型学習システムによる指導の工夫を充実させ、個に応じたきめ細かな指導を推進する。
- (4) ふるさと半田の豊かな自然や多くの人との出会いを通して、郷土愛を育む。
- (5) 人間的なふれあいに基づく児童支援を通して、自立的・自律的な生活態度を育成する。
- (6) ICT を利活用し、業務改善を図ることでゆとりをもって子どもと向き合う時間の確保をめざす。

3 めざす児童像・学校像・教師像

児童像・・・校訓 「なかよく げんきな 半田っ子」
① 「なかよく」・・・互いの「個性」を認め合いなかよくする子 やさしい子、認め合い励まし合い、共に伸びようとする子 ② 「げんきな」・・・自分の「特性」に自信をもつ元気な子 気持ちの良いあいさつのできる子、たくましい子 ③ 「半田っ子」・・・みんなで「可能性」を一杯伸ばす半田っ子 考える子、粘り強く取り組む子、自ら律することのできる子
学校像・・・一人一人が生き活きと活動する魅力ある学校
(1) 「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を育み、児童の個性をのばす学校 (2) 体験活動等を通して、児童の「感性」を磨く学校 (3) 多くの人とのふれあいや体験活動を通して、児童の「社会性」を高める学校 (4) 地域の資源と教育力を十分に生かし、地域とともにある学校
教師像・・・日々研鑽に励み、豊かな人間性と専門性を高め続ける教師
① 児童・保護者や地域住民の願いを受け止め、誠実な態度で応えられる教師 ② 諸課題に対して、学校組織の一員として協力して対応する教師 ③ 謙虚な気持ちを忘れず、常に自ら学び高めようとする姿勢をもつ教師 ④ こころの通い合う指導・支援に努め、人権感覚を磨き続ける教師

4 実践事項

学習指導・・・確かな学力を身に付けさせる。

- ① 分かる喜び、できる嬉しさを味わわせる。
 - ・ 指導と評価の一体化を図り、各教科における基礎的・基本的事項を定着させる。
 - ・ 反復学習でこそ効果があがる学習内容を吟味し、朝学習の充実を図る。
- ② 兵庫型学習システム・児童支援等、個に応じたきめ細かな指導を推進する。
 - ・ 支援の仕方について共通理解を図り同室複数指導法の工夫改善に努める。
- ③ 体的・対話的な深い学びを意識した授業を構成し、自分の思いを豊かに表現する力を高める。
 - ・ 図書室を利用し、読書タイムを充実させる。
 - ・ 授業の中での伝え合う活動を通してコミュニケーション能力の育成を図る。

人権・道徳教育・・・人権尊重を基盤とした実践力と自尊感情を育む。

「豊かな心」を育むため、学校の教育活動全体を通じて道徳教育を推進する。人権教育では、発達段階に応じて人権尊重の精神の涵養を図る。

児童の実態をふまえて、人権課題を自分ごととしてとらえて解決しようとする子の育成をめざす。

- ・ 「新しい部落史に学ぶ授業の創造」を活用する。
 - ・ 震災の教訓を生かし、「命の大切さ」を実感させる取組を推進する。
 - ・ 他者や自己との「対話」による道徳科の授業の推進と評価の充実を図る。
- ① 総合的な学習の時間等の体験活動と道徳の時間を関連させて指導し、人権感覚を磨き「共に生きる心」を養う。
 - ② 人間関係の基本となるあいさつをはじめ、基本的生活習慣や社会生活上のルール、マナーなどを身につけさせる。
 - ③ 全体計画・年間計画に沿って、市が作成するキャリアノートを有効的に活用し、キャリア教育を推進する。

特別支援教育・・・支援が必要な子どもたちの自立と社会参加に向けたキャリア形成をめざす。

- ① 一人一人の教育的ニーズを把握し、個に応じた学習支援や生活支援を進める。
- ② 地域の人々との交流活動を通して、社会性を育む。
- ③ 校内委員会を定期的に開催し、全職員で支援を必要とする子どもたちの現状を把握し、支援方法についても検討し共通理解を図る。

特別活動・・・望ましい集団活動を通して、所属感を高め、成就感を味わわせる。

体験活動や多くの人との交流を通して、「心の教育」の充実を図る。

- ① 学校・学年行事の在り方については、目的を明確にするとともに、発達段階に応じた児童の参画を積極的に推進する。
- ② 児童活動をはじめ、児童の自主的・実践的な活動を支援する。
- ③ 異年齢集団の交流活動（児童集会・委員会活動・クラブ等）を充実させる。

生活科・総合的な学習の時間・・・自ら学び、自ら考え、主体的に対応できる資質や能力を高める。

- ① 実践の積み重ねを基にして、さらに推進するための校内研修体制を整える。
- ② 半田校区のよさを生かした活動を計画的に実施し、自分の住んでいる地域への関心を高め、郷土を愛する態度を育む。
- ③ 地域の人材発掘を推進するとともに、これまで関わっていただいている方との連携を強化する。

生活指導・・・人間的なふれあいで心の絆を深め、すべての教育活動を通して指導を進める。

- ① 生活指導委員会を中核に、自立的な生活態度の育成をめざし、小さな問題を見過ごすことなく、全教職員で共通理解を図り、組織的な指導を徹底する。
- ② 児童の内面を理解するとともに、家庭・地域・関係機関との連携を図る。
 - ・ 生きることの大切さ、命の尊さを自覚させ、いじめや暴力等の根絶をめざす。
- ③ 問題が起こった時は、根本的な解決をめざした取組を進める。
 - ・ 正確な情報を把握し、指導体制・指導方針を決め、組織的に対応する。
 - ・ 事実を保護者に伝え、共に考えていこうとする姿勢で対処する。

情報教育・・・情報活用能力を着実に育成する。（1人1台端末活用の日常化）

- ① 児童の発達段階や各教科等の指導内容に応じて、ICT を利活用し、情報を適切に処理する能力を育成する。
- ② プログラミング教育等、情報の科学的な理解を深める学習を推進する。
- ③ 情報モラル教育を充実させ、家庭や関係機関とも連携し、ネットトラブルの未然防止に努める。

健康・安全教育・・・自他の生命を大切にすることを育て、実践させる。

- ① 学校保健委員会を開催し、学校と家庭・地域との連携を密にし、健康管理と保健指導を充実させる。
- ② 発達段階に応じて喫煙防止や薬物乱用防止等についての指導を実施する。
- ③ 望ましい食習慣に気づかせるとともに、食物アレルギー対応委員会で該当児童への指導方針の共通理解をはかり、家庭や地域と連携した食育に取り組む。
- ④ 安全に対する基本的な生活習慣を身につけさせ、正しい判断力と実践力を養う。
 - ・ ヘルメットの着用や防犯ブザーの携帯について保護者と連携しながら推進する。
- ⑤ 東日本大震災や阪神・淡路大震災を風化させない防災教育の充実に努めるとともに、危機管理意識を醸成する。
 - ・ 不審者対策や災害時のマニュアルを活用し、より実践的な訓練を実施する。
 - ・ 保護者や地域・関係機関と連携し、心のケアの充実を図る。
- ⑥ 施設・設備・備品等の点検保全と管理に努め、修理箇所は迅速に対応する。

地域に信頼される学校づくり…地域に発信し、地域に支えられる。

- ① 「学校評議員制度」を活用する際、実効性のある学校評価システムを確立する。
- ② 学校通信、学級便り、ホームページなどにより、積極的に学校からの情報を発信する。「スポーツクラブ21はんだ」や公民館事業など、地域の各種行事への参加を促し、地域の一員であるとの意識を高め社会性を育む。 ※人権交流推進事業「半田ゆめクラブ」の活動の充実を図る。